

再評価結果（平成24年度事業継続箇所）

担当課：道路局国道・防災課
担当課長名：三浦 真紀

事業名：一般国道44号 <small>ねむろ</small> 根室道路	事業区分：一般国道	事業主体：国土交通省 北海道開発局	
起終点：自： <small>ほつかいどうねむろ</small> 北海道根室市温根沼 至： <small>ほつかいどうねむろ</small> 北海道根室市穂香 <small>ほにおい</small>	延長	7.1 km	
事業概要 一般国道44号は、釧路市を起点に根室市へ至る延長約124kmの主要幹線道路である。 このうち根室道路は、冬期視程障害区間の回避及び物流の効率化等を目的とした根室市温根沼から根室市穂香を結ぶ延長7.1kmの一般国道のバイパス事業である。			
H11年度事業化	H一年度都市計画決定	H12年度用地着手	
全体事業費	約172億円	事業進捗率	
計画交通量	2,900台/日	供用済延長	
費用対効果分析結果	B/C： (事業全体) 1.04 (残事業) 2.2 総費用： (残事業)/(事業全体) 77/165億円 (事業費) 61/149億円 (維持管理費) 16/16億円	総便益： (残事業)/(事業全体) 171/171億円 (走行時間短縮便益) 157/157億円 (走行経費減少便益) 11/11億円 (交通事故減少便益) 3.6/3.6億円	基準年： 平成23年
感度分析の結果 (事業全体) 交通量：B/C=0.9~1.1 (交通量±10%) (残事業) 交通量：B/C=2.0~2.4 (交通量±10%) 事業費：B/C=1.00~1.1 (事業費±10%) 事業費：B/C=2.1~2.4 (事業費±10%) 事業期間：B/C=0.98~1.1 (事業期間±20%) 事業期間：B/C=2.1~2.3 (事業期間±20%)			
事業の効果等 事業の必要性及び効果 ①地吹雪に起因する市街地の孤立化の解消 ・並行現道の通行規制時の代替路の形成により地吹雪に起因する通行止めを軽減し、安定した交通を確保する。 ②水産品の流通利便性向上 ・根室市で水揚げされるさんまの流通利便性向上が期待される。 ③救急搬送の安定性向上 ・高次医療施設への救急搬送の安定性向上が期待される。 ④走行環境の安全性向上 ・走行環境の改善により、交通の安全性向上が期待される。 ⑤日常活動圏中心都市への利便性向上 ・日常活動圏中心都市である釧路市・中標津町への利便性向上が期待される。 ⑥CO ₂ 排出量の削減 ・自動車からのCO ₂ 排出量460(t-CO ₂ /年)の削減が期待される。			
関係する地方公共団体等の意見 地域から頂いた主な意見等： 根室市など1市4町村の首長等で構成される「根室地方総合開発期成会」等より、早期整備の要望を受けている。 知事の意見： 高次医療施設へのアクセスが向上するとともに、冬期間の地吹雪に起因する現道の通行規制時の代替路が確保されるなど、道民生活の向上や経済・社会活動の活性化に寄与することから、当該事業の継続について異議はない。 なお、事業の実施にあたっては、環境への影響を最小限にとどめること。また、徹底したコスト縮減を図るとともに、これまで以上に効率的・効果的に執行し、早期供用を図ること。			

事業評価監視委員会の意見

当委員会に提出された再評価原案準備書の対応方針については、北海道開発局案を妥当と判断する。
なお、3便益以外の地域の特殊性等を考慮した便益について、引き続き検討されたい。

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等

- ・平成17年10月 釧路市、阿寒町、音別町が合併し釧路市が誕生
- ・平成17年11月 「風蓮湖・春国岱」がラムサール条約湿地に登録
- ・平成21年11月 北海道横断自動車道 本別IC～浦幌IC供用

事業の進捗状況、残事業の内容等

平成17年度に工事着手して、用地進捗率92%、事業進捗率50%となっている。

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

引き続き、早期供用に向けて事業を進める。

施設の構造や工法の変更等

橋梁工の見直しによりコスト縮減対策に取り組んでいる。

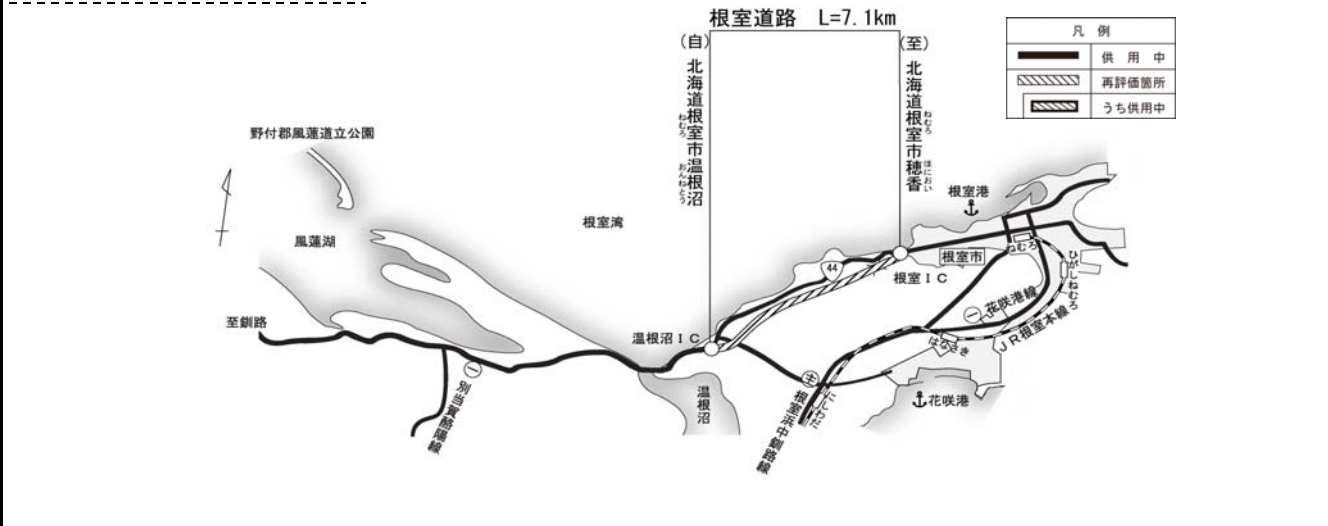
対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

事業の必要性・重要性は変化なく、費用対効果等の投資効果も確保されているため。

事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。